

<原著>

運営主体から見たオープンガーデンの差異に関する研究

土屋 薫¹ 林 香織² 下嶋 聖³ 宮崎雅代⁴

The difference of Open Gardens in Japan through the operating subject

Kaoru Tsuchiya¹, Kaori Hayashi², Hijiri Shimojima³ and Masayo Miyazaki⁴

Abstract

Because it has developed in a different context from its origin in England, there is a difference in quality with regard to “open-gardens” in Japan. Unlike in England open-gardens in Japan don't always have the aim of charity. They also lack integrated organizations to operate their activities. In every city, people show their gardens as they like. They don't have the explicit aim or standards for showing their gardens. It is a kind of pasturage – no map, no support and self-responsibility.

Besides those held for commercial purposes, open-gardens in Japan can generally be classified into three categories, those that are operated by local governments, gardening circles and ‘complicated’ organizations.

In the results of questionnaire surveys conducted in September and October 2014 significant differences can be observed among the garden owners in three cities, Obuse in Nagano prefecture, Nagareyama in Chiba prefecture, and Eniwa in Hokkaido. These three cities were chosen as representative of three different types of open-gardens.

In order to get a road map of open-gardens in Japan to facilitate its maturation, it is necessary to define the difference among the types while eliminating the biases arising from characteristics of the three regions. Additionally it provides a way to improve the leisure environment.

1. はじめに

現代社会の基本的な枠組みは、産業革命以来の生産手段の飛躍的發展とそれに伴う消費社会の進展の結果としてとらえることができる。このことは、金銭と商品の交換こそが生活の基本であるという認識が一般化する過程でもある。これは、世の中のものは必ず誰かのもの、そうした個人の所有物の集合体として世界全体が成り立っている、という意識を常態化させる。

第1次・第2次開墾込み運動を経て真っ先に産業革命を成し遂げたイギリスにおいて、いち早く社会福祉の概念が芽生えたのも偶然ではない。個

人の所有物に囲まれた世界は格差を明確にするからである。

イギリスにおいて、慈善事業のかたちでオープンガーデンが始まったのも、こうした社会背景と軌を一にしている。そして、チャリティを目的としているからこそ、収益の配分に責任を果たす意味でナショナル・ガーデン・スキームのような統括組織が求められたのである¹⁾。

ところが日本において催されているオープンガーデン活動の中には、イギリスのものとは異なる文脈が見受けられる。また近年、雨後の筍のように林立しつつあるオープンガーデンは、それぞ

1 江戸川大学社会学部 College of Sociology, Edogawa University
2 江戸川大学メディアコミュニケーション学部 College of Media Communications, Edogawa University
3 東京農業大学短期大学部 Junior College of Tokyo University of Agriculture
4 特定非営利活動法人日本トピアリー協会 Nonprofit Organization Japan Topiary Association

れ目指すところも異なっており、イギリスのように単一の組織に統括されているわけでもない。つまり、日本のオープンガーデンは必ずしも標準化されておらず、地域間格差が小さくない。

こうした状況は、かつてメディアによる流行によって乱立し、ブームの退潮によって淘汰されていったボウリング場やプールバー等のレジャー施設を想起させる。存立基盤が不明瞭なレジャー活動は社会の選択肢として定着し得ない。オープンガーデンという活動が脚光を浴びている今だからこそ、日本においては、その運営のロードマップが求められている。そしてそのためには、一見各地域において多様でとりとめもないように思えるオープンガーデン活動の分類について見極めることから始める必要がある。

2. 日本におけるオープンガーデンの現状

国土交通省の資料によれば、2014年8月現在、日本では71のオープンガーデン活動が確認されているⁱⁱ⁾。先行研究によると2000年までに11団体による活動が確認されているのでⁱⁱⁱ⁾、14年の間に60ものエリアが新規参入したことになる。

またこれとは別に、2003年以来、『全国オープンガーデンガイドブック』が発行されている。これは自宅の庭を公開している家の情報をまとめたもので、2013/2015年版によれば、その軒数は北海道から沖縄まで293に及ぶ。そしてその市町村は124にのぼる(表1)。そこで、2015年6月現在の実態について、ガイドブックに掲載されている124市町村に基づいてweb上で検索したところ、100を越えるオープンガーデン活動が確認された。

日本のオープンガーデンの多様性とその背景については先述の通りであるが、シンプルでわかりやすいのは、行政との関係の中で整理する「協同型」「独立型」「依存型」という分類である^{iv)}。ただしこれは行政からの支援を検討するスキームになっているので、運営主体を明記している国土交通省の資料を元にweb検索の情報を加えて整理し直した(表2)。ここでは、個人や企業・店舗での取り組み、一過性のイベント、見学会、また公園緑化といった活動は取り上げず、あくまで地域的な拡がりのあるものに限って取り上げた。ま

表1 オープンガーデンガイドブック
2013/2015における掲載件数

エリア	個人庭	市町村
北海道	17	14
東北	16	8
関東	87	28
中部	45	23
関西	62	21
中国・四国	46	24
九州・沖縄	20	6
計	293	124

た運営主体の区分については、「地方公共団体」のほか、必ずしも公共性や公益性、代表性に関する議論は中心ではないので、NPOや市民団体を含め、「市民グループ」という区分とした^{v)}。また、「実行委員会」形式のように複数の団体関わって運営されているものは、目的や意思決定が前者2つと異なるので「その他・複合」として区分した。

この資料で公開開始年に着目すると、日本では着実にオープンガーデンの増えてきていることがわかる(図1)。ただ、運営主体別に整理すると、大きな違いのあることがわかる(図2)。

たとえば、SARS(重症急性呼吸器症候群)が流行した2003年や愛・地球博(2005年日本国際博覧会)のようなナショナル・イベントの開かれた2005年には、どの型の運営主体でも開催開始エリア数は減少している。ところが、2007年から2010年にかけては、地方公共団体によって運営されるオープンガーデンのみ新規公開が減っている。これには少なからず「平成の大合併」が影響を及ぼしていると考えられる。また、2011年に「その他・複合」型によるオープンガーデンの新規公開が減っているのは、東日本大震災を受けてイベントを「自粛」するムードが高まっており、イベントに合わせて、あるいは賑わいを旨として実施するオープンガーデンの企画自体が控えられたことが考えられる。こうして見ると、一口にオープンガーデンと言っても、影響を受ける事由が異なるので、これらを一括して扱うには無理がある^{vi)}。

表2 全国のオープンガーデン（120ヶ所）

名称(事業主体)	都道府県	中心エリア	公開 開始年	地方 公共団体	市民 グループ	その他・ 複合
オープンガーデンOP北海道	北海道	道内	2001		○	
恵み野オープンガーデン	北海道	恵庭市	1992			○
北広島オープンガーデン	北海道	北広島市	1998		○	
オープンガーデンFUKAGAWA	北海道	深川市	2009			○
北見市オープンガーデン	北海道	北見市	2013			○
オープンガーデンとわだ	青森	十和田市	2010	○		
オープンガーデンいわて	岩手	県内	1997		○	
オープンガーデンおうしゅう	岩手	奥州市	2008		○	
オープンガーデンみやぎ	宮城	仙台市	1998		○	
オープンガーデン秋田	秋田	県内	2012		○	
オープンガーデン横手	秋田	横手市	2013		○	
山形蔵王オープンガーデン	山形	上山市	1999			○
オープンガーデンいわき	福島	いわき市	1999		○	
オープンガーデン Green Net	福島	郡山市	2003		○	
オープンガーデンin 鹿沼	栃木	鹿沼市	2010			○
オープンガーデンin ましこ	栃木	益子町	2008	○		
しましまオープンガーデンフェスティバル	群馬	前橋市	2006		○	
下川淵オープンガーデン	群馬	前橋市	2010			○
オープンガーデンいせさき	群馬	伊勢崎市	2013	○		
たてばやしオープンガーデン	群馬	館林市	2013	○		
太田フラワーメイトオープンガーデン	群馬	太田市	2010		○	
ふかや花フェスタ&オープンガーデンフェスタ	埼玉	深谷市	2004		○	
坂戸オープンガーデン	埼玉	坂戸市	2004	○		
オープンガーデンよこぜ	埼玉	横瀬町	2009			○
鴻巣オープンガーデン	埼玉	鴻巣市	2007		○	
さいたま市緑区オープンガーデン	埼玉	さいたま市	2011		○	
きたもとオープンガーデン	埼玉	北本市	2014	○		
オープンガーデン白岡	埼玉	白岡市	2012			○
毛呂山町オープンガーデン	埼玉	毛呂山町	2012			○
オープンガーデン花友遊くまがや	埼玉	熊谷市	2007		○	
オープンガーデン花さんぽ	埼玉	熊谷市	2015		○	
オープンガーデンとだ	埼玉	戸田市	2011		○	
とことこガーデン	埼玉	所沢市	2011	○		
オープンガーデンin 新郷	埼玉	羽生市	2007		○	
安行オープンガーデン	埼玉	川口市	2010			○
オープンガーデン加須	埼玉	加須市	2011	○		
皆野町オープンガーデン	埼玉	皆野町	2004			○
流山オープンガーデン	千葉	流山市	2005		○	
カシニワ・フェスタ	千葉	柏市	2013	○		
まちなかガーデニングフェスタ	千葉	市川市	2011	○		
いちはらオープンガーデン	千葉	市原市	2011	○		
オープンガーデン大網白里	千葉	大網白里市	2011		○	
西東京オープンガーデン	東京	西東京市	2008			○
小さな森	東京	世田谷区	2005			○

オープンガーデンはむら	東京	羽村市	2006			○
あきる野市オープンガーデン	東京	あきる野市	2006	○		
こだいらオープンガーデン	東京	小平市	2007			○
さがみはらオープンガーデン	神奈川	相模原市	2004			○
大磯オープンガーデン	神奈川	大磯町	2006			○
港北オープンガーデン	神奈川	横浜市	2013			○
オープンガーデン・新潟	新潟	南魚沼市	2004		○	
オープンガーデン緑の里保内	新潟	三条市	2007			○
上越オープンガーデン	新潟	上越市	2015			○
のとキリシマツツジオープンガーデン	石川	能登各地	2008			○
山中湖オープンガーデン	山梨	山中湖村	2003		○	
軽井沢オープンガーデン	長野	軽井沢町	2006			○
松本オープンガーデン	長野	松本市	2004	○		
オープンガーデン信州	長野	県内	2004		○	
おぶせオープンガーデン	長野	小布施町	2000	○		
信州須坂オープンガーデン	長野	須坂市	2005	○		
GIFFUオープンガーデン	岐阜	県内	2002		○	
伊豆オープンガーデン	静岡	伊東市	1999		○	
オープンガーデン浜松	静岡	浜松市	1997			○
富士市オープンガーデン	静岡	富士市	2012		○	
オープンガーデン富士宮	静岡	富士宮市	2008		○	
しずおかオープンガーデン	静岡	静岡市	2009		○	
中遠オープンガーデン花仲間	静岡	県内	2008			○
岡崎オープンガーデン	愛知	岡崎市	2013		○	
豊橋オープンガーデン	愛知	豊橋市	2010			○
にっしんオープンガーデン	愛知	日進市	2011	○		
オープンガーデン知多半島	愛知	知多市	2002	○		
東海市フラワーガーデン	愛知	東海市	2007		○	
安城オープンガーデン	愛知	安城市	2011		○	
とよたガーデンニングフェスタ(とよた緑花まつり)	愛知	豊田市	2007			○
春日井オープンガーデン	愛知	春日井市	2014		○	
オープンガーデン熊野	三重	熊野市	2001	○		
オープンガーデンかめおか	京都	亀岡市	2005			○
長岡京オープンガーデン	京都	長岡京市	2014		○	
オープンガーデンさかい	大阪	堺市	2002		○	
三田花と緑のネットワーク	兵庫	三田市	2000		○	
花ハート神戸オープンガーデン	兵庫	神戸市	2008			○
あわじオープンガーデン	兵庫	淡路市	2002			○
とよおかオープンガーデンショー	兵庫	豊岡市	2002			○
佐津・訓谷オープンガーデンフェスタ	兵庫	香美町	2004			○
たんばオープンガーデン	兵庫	丹波市・篠山市	2002		○	
あさごオープンガーデン	兵庫	朝来市	2002			○
まちなみガーデン AIOI	兵庫	相生市	2005	○		
オープンガーデン in たつもの	兵庫	たつもの市	2011	○		
中播磨オープンガーデン	兵庫	姫路市	2002		○	
川西オープンガーデン	兵庫	川西市	2004			○
芦屋市オープンガーデン	兵庫	芦屋市	2006	○		
オープンガーデン伊丹	兵庫	伊丹市	2005		○	
宝塚オープンガーデンフェスタ	兵庫	宝塚市	2002	○		

めぐみオープンガーデン	兵庫	猪名川町・川西市	2015		○	
多可オープンガーデン	兵庫	多可町	2010		○	
オープンガーデンわかやま	和歌山	県内	2003		○	
イエローブック岡山	岡山	県内	1999		○	
庄原さとやまオープンガーデン	広島	庄原市	2011			○
萩オープンガーデン	山口	萩市	2002			○
光オープンガーデン	山口	光市	2013			○
阿波オープンガーデン	徳島	阿波市	2013		○	
オープンガーデン徳島	徳島	県内	2010		○	
善通寺花へんろ	香川	県内	2004		○	
田丸丸オープンガーデン彩の会	福岡	久留米市	2009		○	
田丸丸オープンガーデン花と庭の会	福岡	久留米市	2004		○	
湊坂オープンガーデン	福岡	新宮町	2008		○	
オープンガーデン北九州	福岡	北九州市	2002		○	
佐賀「庭の駅」オープンガーデン	佐賀	佐賀市	2009			○
武家屋敷オープンガーデン	長崎	平戸市	2002		○	
オープンガーデン菊池	熊本	菊池市	2002			○
あまくさオープンガーデン	熊本	天草市	2012	○		
南阿蘇・庭・めぐり オープンガーデンフェア	熊本	南阿蘇村	2012		○	
おおいた花と緑のオープンガーデン	大分	大分市・県内	2012			○
チェルシークラブ in おおいた	大分	大分市	1998		○	
オープンガーデンサンフラワー宮崎	宮崎	宮崎市	2001		○	
HMG オープンガーデンみやざき	宮崎	宮崎市	2006		○	
オープンガーデンいぶすき	鹿児島	指宿市	2006		○	
Flower Rondo オープンガーデン	鹿児島	県内	2009		○	
ハッピー！オープンガーデン	沖縄	裏添市	2011		○	
南城市憩いのオープンガーデン	沖縄	南城市	2009			○
計				23	57	40

※ 2015年6月30日現在

(件)

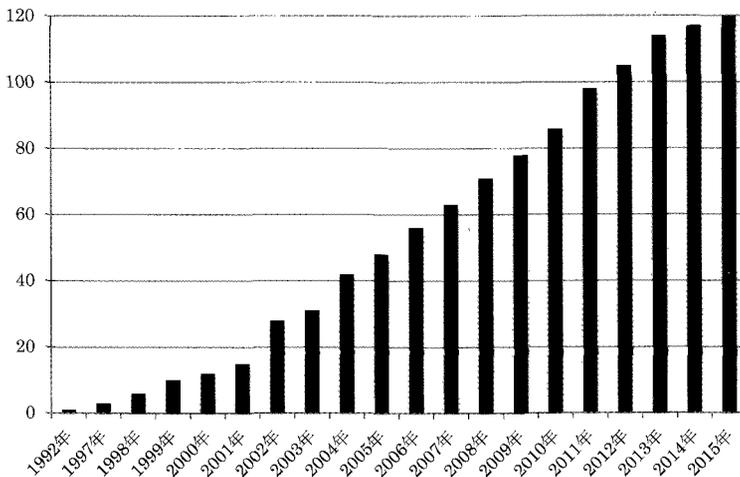


図1 日本におけるオープンガーデンの累積公開数

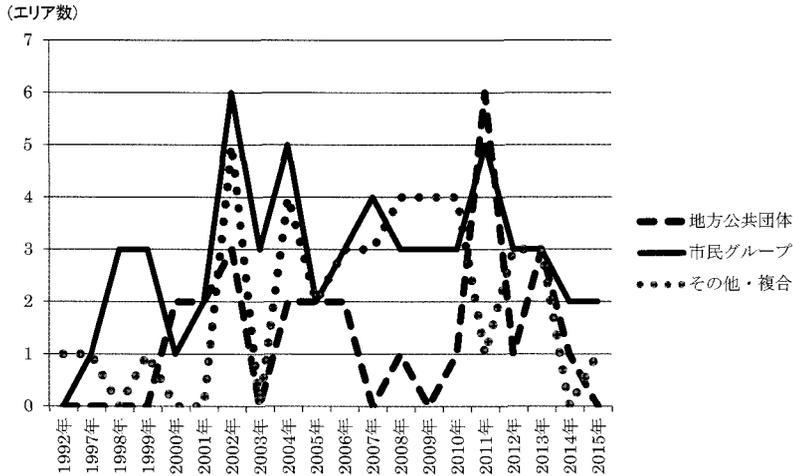


図2 運営主体別に見たオープンガーデン公開開始数の変遷

3. 研究の目的

そこで本研究では、運営主体によるオープンガーデンの特徴について明らかにすることを目的とする。その際、「地方公共団体」・「市民グループ」・「その他・複合」という3つの区分に着目しオープンガーデン間の違いについて検討した。

4. 研究の方法

(1) 調査対象

調査対象として、地方公共団体が運営に関わっているオープンガーデンとして長野県小布施町、市民グループが運営に関わっているオープンガーデンとして千葉県流山市、その他複数の団体が運営に関わっているオープンガーデンとして北海道恵庭市を取り上げた(図3)。小布施町と恵庭市はそれぞれの区分の草分けであり、現在も継続してオープンガーデンが行われ、多くのモデルとなっていると考えられるからである。また、市民グループについては、研究成果が蓄積されていることから流山市を取り上げることとした。恵庭市のオープンガーデンに関わる組織に関しては図3に示す通りであるⁱⁱⁱ⁾。

具体的には、3地域で発行されているオープンガーデンマップ、およびガイドブックに掲載されているオーナー(恵庭市では「花のきれいな庭」として掲載されているお宅を含む)を対象とした。

(2) 調査方法

標本数は全体で191(小布施町=126、流山市=

24、恵庭市=41)で、自己記入式の調査票を直接配布し郵送回収した。

調査実施期日に関しては、小布施町と流山市が2014年9月、恵庭市は2014年10月に実施した。

調査票は、属性のほか「ガーデニングへの取り組み」、「オープンガーデンへの取り組み」、「レジャー活動」、「余暇診断結果」という4つの調査項目から構成した。

ガーデニングへの取り組みについては、「何を中心に庭を構成しているか」と「庭の手入れを主に誰と行うか」という設問でとらえた。庭の構成に関しては、限られた紙幅の中でのなるべく簡便にとらえるために、現地パイロット調査の結果を踏まえて「1年草/2年草・多年草/宿根草/球根類・バラ・樹木類・その他」という選択肢への多重回答として設問を構成した。

オープンガーデンへの取り組みについては、「年間来訪者」「庭を公開している理由」「来訪者の意向認知」「来訪者受入れ姿勢」「公開時の来訪者からの質問内容」「返答するのに手間取った質問内容」という設問でとらえた。先行研究の知見よりオープンガーデンを趣味縁のひとつのかたちとしてとらえ、趣味縁を構築する契機として情報の交換に注目した^{iv)}。

レジャー活動については、レジャー白書において参加度の高いレジャー活動を選び、その参加度について5件法で尋ねた。

余暇診断結果については、余暇退屈度(Leisure

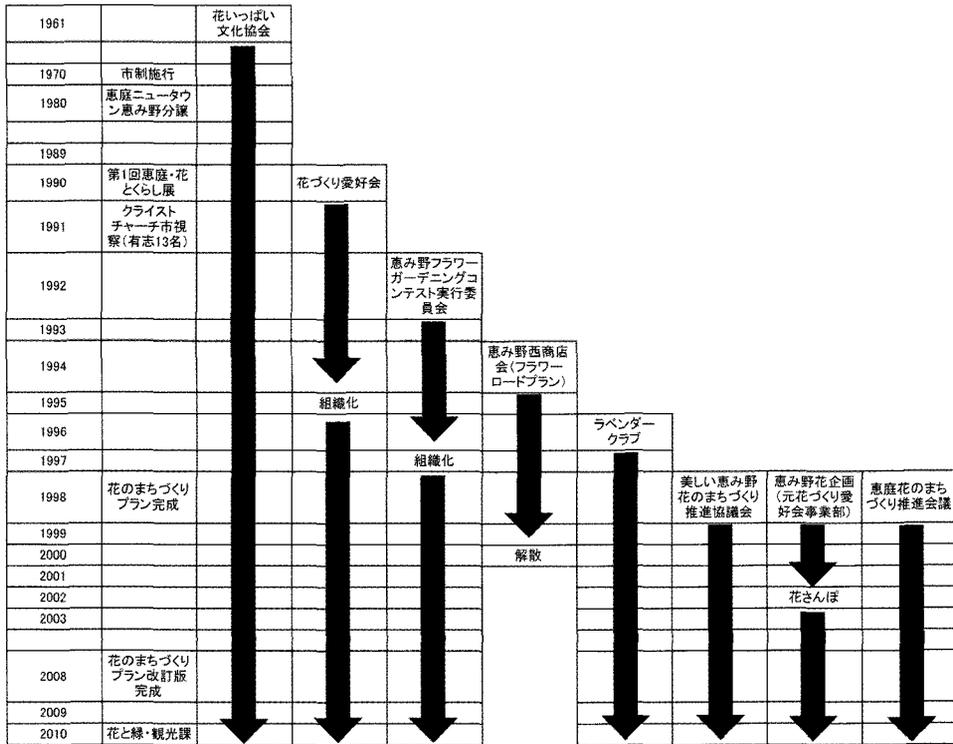


図3 恵庭における花づくりに関連した組織の変遷

小林昭裕, 2007「ガーデニングとまちづくり」浅川昭一郎編著『北のランドスケープ』p.105に加筆修正

Boredom Scale：以後LBSと表記する) ショートバージョン短縮版(8項目)を用いた。

データの解析に関しては、PASWStatistics19.0 (SPSS)を使用した。

5. 結果および考察

有効回答数は137(小布施町=80、流山市=23、恵庭=34)で、回収率は小布施町=63.5%、流山市=95.8%、恵庭市=83.0%となった。このように、総じて一般の質問紙調査と比べて非常に回収率が上がった原因として、趣味縁に属している調査対象者に関心の高い調査内容であったことが考えられる。

(1) 属性

まずはじめに、調査地と回答者の属性との間でクロス集計をとったところ、性別では、小布施で男性の割合が41.3%と、流山や恵庭と比べて突出して高く(表3)、カイ2乗検定の結果では、5%水準で有意差が認められた(p=0.032)。また家族構成では、小布施で3世代家族の率が31.3%と圧

倒的に高く(表4)、カイ2乗検定の結果も、1%水準で(p=0.004)有意差が認められた。これは、小布施が江戸時代から続く歴史ある町であることの影響であろう。また同様に、年齢構成では、3地点とも60歳代・70歳以上が中心であった(表5)。カイ2乗検定の結果は、5%水準でも有意差が認められなかった(p=0.617)。

小布施において男性の参加率が多いのは、いわゆるガーデニングブーム以前から自宅の庭いじりに参加してきた層が少なくないからだと思われる。

居住年数の平均をとったところ、小布施が44.7年、流山が30.6年、恵庭が23.5年となっているが、その分布を見てみるとそれぞれの調査地における住民流入の状況が現れている。

すなわち小布施では、45年前にあたる人口減対策としての1969(昭和44)年の小布施町開発公社設立と宅地分譲、40年前にあたる1976(昭和51)年の北斎館の開館、その後、30年前にあたる1980年代(昭和50年代半ば~60年代)にかけて

表3 オーナーの性別（地域別）

	男性	女性	無回答	合計
小布施 度数	33	44	3	80
地域別の割合	41.3%	55.0%	3.8%	100%
流山 度数	4	16	3	23
地域別の割合	17.4%	69.6%	13.0%	100%
恵庭 度数	6	26	2	34
地域別の割合	17.6%	76.5%	5.9%	100%
合計 度数	43	86	8	137
全体の割合	31.4%	62.8%	5.8%	100%

表4 家族構成（地域別）

	一人暮らし	夫婦のみ	親と子ども	3世代家族	その他	無回答	合計
小布施 度数	1	21	26	25	6	1	80
地域別の割合	1.3%	26.3%	32.5%	31.3%	7.5%	1.3%	100%
流山 度数	1	12	10	0	0	0	23
地域別の割合	4.3%	52.2%	43.5%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
恵庭 度数	3	17	10	2	2	0	34
地域別の割合	8.8%	50.0%	29.4%	5.9%	5.9%	0.0%	100%
合計 度数	5	50	46	27	8	1	137
全体の割合	3.6%	36.5%	33.6%	19.7%	5.8%	0.7%	100%

表5 年齢構成（地域別）

	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳以上	無回答	合計
小布施 度数	1	4	9	35	30	1	80
地域別の割合	1.3%	5.0%	11.3%	43.8%	37.5%	1.3%	100%
流山 度数	1	0	3	11	8	0	23
地域別の割合	4.3%	0.0%	13.0%	47.8%	34.8%	0.0%	100%
恵庭 度数	0	1	4	22	7	0	34
地域別の割合	0.0%	2.9%	11.8%	64.7%	20.6%	0.0%	100%
合計 度数	2	5	16	68	45	1	137
全体の割合	1.5%	3.6%	11.7%	49.6%	32.8%	0.7%	100%

の地場産業である菓子店の発展と1981（昭和56）年に始まる町並み修景事業の影響が考えられる。8年前にあたる2008（平成20）年のまちづくり委員会の設立や2009（平成21）年の「まちとしゃテラソ」（町立図書館）の開館、その延長線上の「おぶせまちじゅう図書館」（2012（平成24）年～）といった施策は市民に対するサービス向上

を意味している。したがって、居住年数の分布の山も居住年数40年のところと30年のところ、さらに10年のところにピークが来ていると考えられる（図4）^{ix)}。

また流山において、現在最もオープンガーデンに参加する庭数の多い市内北部にある江戸川台団地の開発が始まったのは、1958（昭和33）年以降

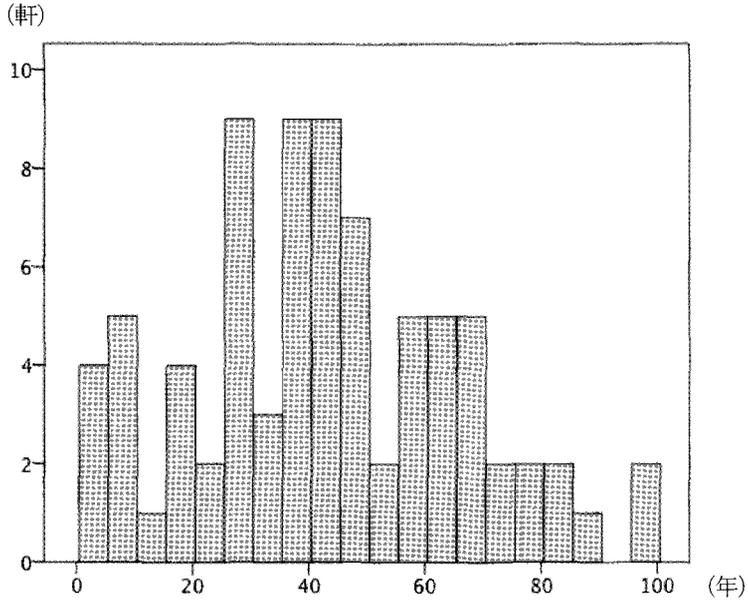


図4 居住年数 (小布施)

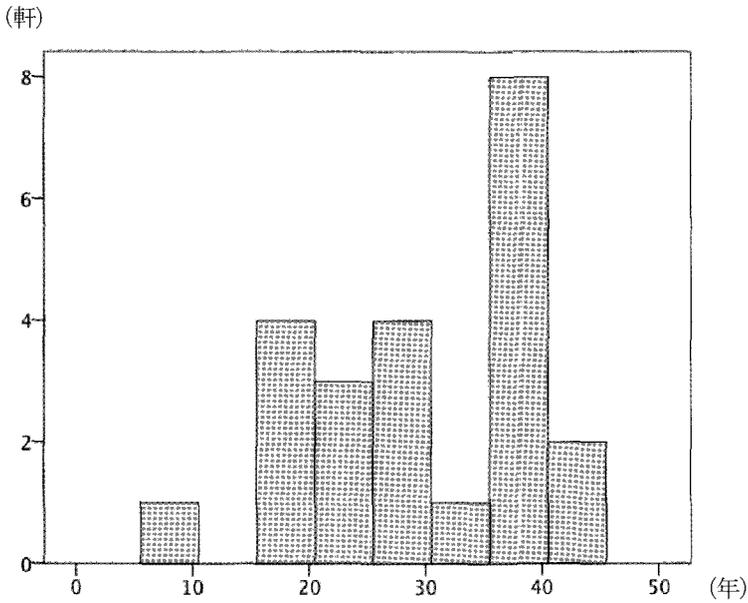


図5 居住年数 (流山)

である。したがって居住年数はそれより少なくなっている。その後流山市では、1970年代後半から80年代にかけて、南部の宮園団地や中部の東映団地、美田団地など、市内全域で開発が進んでいく。居住年数の分布もこれに対応して、40年前後と30年前後、20年前後にピークの山があると思われる(図5)^{x)}。また2005(平成17)年の

つくばエクスプレス開通は、地域のインフラ整備としての側面も意味するので、この10年の住民流入増加に結びついていると考えられる。

恵庭の居住年数は、1980(昭和55)年の市内「恵庭ニュータウン恵み野」の分譲開始と軌を一にしており、分布のピークも1つとなっている(図6)^{xi)}。

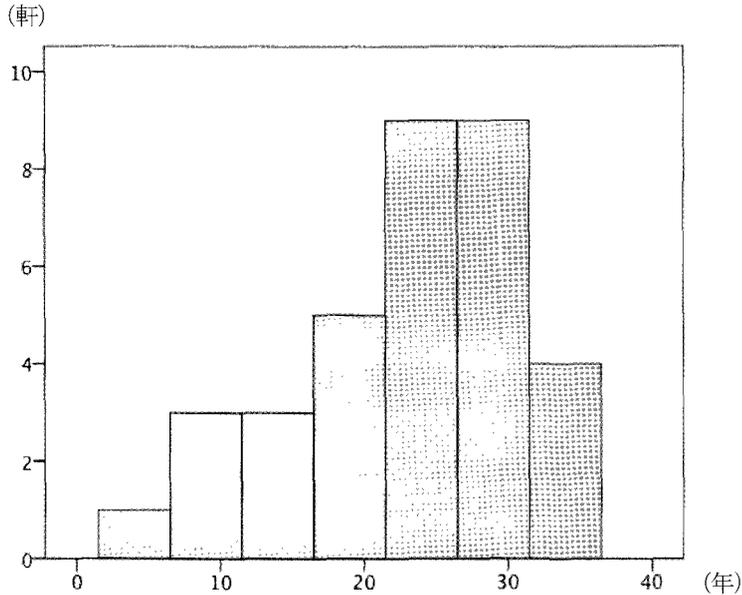


図6 居住年数 (恵庭)

(2) ガーデニングへの取り組み

ガーデニングへの取り組みに関して、まず、何を中心に庭を構成しているかについて、多重回答で聞いたところ、全体として、最も多い回答が「多年草・宿根草・球根類」の72.3%、ついで樹木類が62.0%であった(表6の最下段の総計部分)。調査地とこの設問群それぞれとのクロス集計をとったところ、カイ2乗検定の結果は、「バラ」($p=0.000$)と「樹木類」($p=0.000$)には0.1%水準で、「多年草・宿根草・球根類」($p=0.003$)には1%水準で有意差が認められた。これは、小布施でバラが少なく(17.5%)樹木類が多い(75.0%)という結果、また恵庭で多年草・宿根草・球根類が多く(94.1%)樹木類が少ない(35.3%)という結果を反映していると思われる(表6)。

庭の構成から見る限り、この結果は、運営主体の差というよりも、居住年数の長い、すなわち庭に歴史のある小布施において樹木中心の傾向が出ていると考えられる。そしてこのことは、小布施においてのみバラの割合が顕著に低いところからもわかる。家の建て替えのような大掛かりな環境整備の機会を除くと、一般に園芸で用いられるつる性植物としてのバラを植えるためだけに既存の植栽樹木の植え替えまで行う、とい比率の高くないことが想定される。

その一方で、恵庭において「樹木」の割合が低く「多年草・宿根草・球根類」の割合が高いのは、2つの要因が考えられる。ひとつは、積雪の重みに耐えられずに折れたり、重さに耐えられるような雪対策の困難さから、あえて樹木を避けようとするという点である。もうひとつは、大掛かりな積雪対策を施さなくても積雪に耐え、春には自力で芽吹く多年草や宿根草、球根類が扱いやすいという点である³⁰⁾。このような状況を見ると、ガーデニングへの取り組みに対して、少なからず立地や気候条件が影響を与えていることは否めない。

また庭の手入れを誰と行うかについて尋ねたところ、調査地によってあまり大きな差が出ていないように思われる(表7)。クロス集計をとったところ、カイ2乗検定の結果は、5%水準でも有意差が認められなかった($p=0.154$)。

(3) オープンガーデンへの取り組み

オープンガーデンのオーナーが年間来訪者としてとらえている数について、記入式で尋ねたところ、表8の結果が出た。小布施において平均値と最大値が抜きん出ていることは、町全体で観光事業の一端としてオープンガーデンとらえていることの現れであると考えられる。また流山において、他の調査地と比べて最小値と最大値の差が大きく

表6 庭の構成の中心となるもの（地域別）

	1年草・2年草	多年草・宿根草・球根類	バラ	樹木類	その他	合計
小布施 度数	27	50	14	60	7	80
小布施の総数(80)に占める割合	33.8%	62.5%	17.5%	75.0%	8.8%	
流山 度数	10	17	16	13	2	23
流山の総数(23)に占める割合	43.5%	73.9%	69.6%	56.5%	8.7%	
恵庭 度数	16	32	23	12	5	34
恵庭の総数(34)に占める割合	47.1%	94.1%	67.6%	35.3%	14.7%	
総計 度数	53	99	53	85	14	137
回答者全体(137)に占める割合	38.7%	72.3%	38.7%	62.0%	10.2%	

※ 多重回答から作表しているため、行の割合を足しても100%にはならない

表7 庭の手入れを誰とするか（地域別）

	一人で	配偶者と	親と	子どもと	その他	無回答	合計
小布施 度数	33	25	4	2	9	7	80
地域別の割合	41.3%	31.3%	5.0%	2.5%	11.3%	8.8%	100%
流山 度数	12	9	0	0	1	1	23
地域別の割合	52.2%	39.1%	0.0%	0.0%	4.3%	4.3%	100%
恵庭 度数	19	15	0	0	0	0	34
地域別の割合	55.9%	44.1%	0.0%	0.0%	0.0%	0.0%	100%
合計 度数	64	49	4	2	10	8	137
全体の割合	46.7%	35.8%	2.9%	1.5%	7.3%	5.8%	100%

表8 年間来訪者数（地域別）

	平均値	中央値	最小値	最大値
小布施	1689.3	100	0	50000
流山	485.8	300	100	2050
恵庭	852.5	100	1	15000

(人)

※ 無回答と0を除いて計算した

ないのは、統一公開日として年に3日間だけ公開している結果だと思われる²⁰⁾。

また来訪者のタイプに関して、全体ではリピーターは24.1%にとどまるので(表9)、オープンガーデンは交流そのものというよりは、交流のきっかけとしての側面の強いことがわかる。ただ、調査地とのクロス集計をとったところ、カイ2乗検

定では有意差が見られなかったものの($p=0.222$)、流山から小布施、恵庭とリピーターの率が上がっている(流山=13.0%、小布施=21.3%、恵庭=38.1%)、公開からの年数が長くなるにつれてリピート率が上がっているととらえることも可能である。だとすれば、運営主体による特性をとらえるという本研究の直接の目的からは外れる

表9 訪問者のタイプ (地域別)

		初めて訪問 される方	リピーター	無回答	合計
小布施	度数	50	17	13	80
	地域別の割合	62.5%	21.3%	16.3%	100%
流山	度数	16	3	4	23
	地域別の割合	69.6%	13.0%	17.4%	100%
恵庭	度数	16	13	5	34
	地域別の割合	47.1%	38.2%	14.7%	100%
合計	度数	82	33	22	137
	全体の割合	59.9%	24.1%	16.1%	100%

が、公開年数が長くなるほど、レジャー活動として「庭を訪れるという選択肢」として社会の中で定着していくプロセスを示すものとして注目に値する。

また、自宅の庭を公開している理由に関して、調査地とのクロス集計をとったところ、カイ2乗検定では、1%水準で有意差が認められた ($p=0.008$)。表10に示す通り、小布施では、「住んでいる街の良さを知って欲しい」が35.0%と最も多く、ついで「人にすすめられて」という理由が25.0%だった。これに対して、流山では、「同じ趣味を持つ人たちと交流したいから」と答えたオーナーが52.2%と最も多く、ついで「住んでいる街の良さを知って欲しい」が17.4%という回答

が2位だった。恵庭では、流山と同じく「同じ趣味を持つ人たちと交流したいから」と答えたオーナーが最も多かったが(26.5%)、2位の「住んでいる街の良さを知って欲しい」(20.6%)、また3位の「人にすすめられて」(14.7%)、4位の「誰かの庭づくりの参考になればと思って」(11.8%)とも比較的割合が近かった。この結果は運営主体の特徴が現れた結果だと言える。ただ庭を公開している理由、すなわちオーナーの動機が異なるということは、同じように「オープンガーデン」と称して自宅の庭を公開していても、当然目指すものや求める支援のかたちは変わってくることを意味する。

次に、オープンガーデンを実施している庭の

表10 庭を公開している理由 (地域別)

		同じ趣味 を持つ人 たちと交 流したい から	手間暇か けてつくっ た庭を見 てほしい から	誰かの庭 づくりの参 考になれ ばと思っ て	住んでい る街の良 さを知っ てほし い	人にすす められて	付き合い で仕方な く	訪問した 人の感想 がききた く	その他	無回答	合計
小布施	度数	9	6	1	28	20	2	1	7	6	80
	地域別の割合	11.3%	7.5%	1.3%	35.0%	25.0%	2.5%	1.3%	8.8%	7.5%	100%
流山	度数	12	1	2	4	2	0	0	2	0	23
	地域別の割合	52.2%	4.3%	8.7%	17.4%	8.7%	0.0%	0.0%	8.7%	0.0%	100%
恵庭	度数	9	2	4	7	5	0	0	6	1	34
	地域別の割合	26.5%	5.9%	11.8%	20.6%	14.7%	0.0%	0.0%	17.6%	2.9%	100%
合計	度数	30	9	7	39	27	2	1	15	7	137
	全体の割合	21.9%	6.6%	5.1%	28.5%	19.7%	1.5%	0.7%	10.9%	5.1%	100%

オーナーが来訪者の意向をどのように認識しているか、多重回答で尋ねたところ、表11のようになった。全体としては、「庭の雰囲気を味わいたい」(65.2%)、「花や木自体を楽しみたい」(60.0%)、「自分の庭の参考にしたい」(53.3%)という順で、庭そのものを中心に来訪者の意向をとらえている。

ただ調査地と設問群とのクロス集計をそれぞれとったところ、カイ2乗検定で、「花や草木に関するおしゃべりをしたくて訪問した」(p=0.009)、「庭づくりの参考にしたいと訪問した」(p=0.008)、「別のイベントのついでに訪問した」(p=0.004)、「観光のついでに訪問した」(p=0.007)の4つが、1%水準で有意差が認められた。また、「庭づくりに関するおしゃべりをしたくて訪問した」(p=0.015)、「オーナーの意見や考えを知りたくて訪問した」(p=0.043)、「花や草木を楽しみたくて訪問した」(p=0.033)の3つが、5%水準で有意差が認められた。

特に流山では、来訪者との交流が意識されているし、小布施では、観光やほかのイベントのついでに訪れる来訪者の存在も多く意識されていることがわかる。

そして実際に来訪者に質問された内容について尋ねてみると、表12のようになった。全体としては、「花や木の名前や種類」(84.6%)、「花や木の育て方」(58.8%)、「施工期間」(39.7%)という順になっている。

ただ調査地と設問群とのクロス集計をそれぞれとったところ、カイ2乗検定で、「花や木の育て方」(p=0.005)、「花や木の育て方」(p=0.001)、「苗の購入先」(p=0.000)、「施工期間」(p=0.001)、「庭のコンセプトやテーマ」(p=0.002)、「用具の購入先」(p=0.000)、「おすすめの庭」(p=0.002)、「道順」(p=0.000)、「駅やバス停」(p=0.002)の9つで1%の有意水準で有意差が認められた。また「休憩場所」では5%水準で有意差が認められた(p=0.014)。

表11 来訪者が求めているものは何だと思うか

	花や木に関するおしゃべり	庭づくりに関するおしゃべり	オーナーの意見や考え	ただのおしゃべり	オーナーとの出会い	オーナーには無関心	庭の雰囲気	花や木自体	自分の庭の参考にすること	別のイベントのついで	観光のついで	その他	合計
小布施 度数	26	24	7	5	0	4	46	39	33	22	28	2	78
小布施の合計(78)に占める割合	33.3%	30.8%	9.0%	6.4%	0.0%	5.1%	59.0%	50.0%	42.3%	28.2%	35.9%	2.6%	
流山 度数	17	15	6	0	0	0	17	19	19	0	0	1	23
流山の合計(23)に占める割合	73.9%	65.2%	26.1%	0.0%	0.0%	0.0%	73.9%	82.6%	82.6%	0.0%	0.0%	4.3%	
恵庭 度数	16	18	1	3	2	1	25	23	20	2	7	2	34
恵庭の合計(34)に占める割合	47.1%	52.9%	2.9%	8.8%	5.9%	2.9%	73.5%	67.6%	58.8%	5.9%	20.6%	5.9%	
総計 度数	59	57	14	8	2	5	88	81	72	24	35	5	135
回答者全体(135)に占める割合	43.7%	42.2%	10.4%	5.9%	1.5%	3.7%	65.2%	60.0%	53.3%	17.8%	25.9%	3.7%	

※ 多重回答から作表しているため、行の割合を足しても100%にはならない

表 12 来訪者に質問されたこと

	花や木の名前や種類	花や木の育て方	苗の購入先	施工期間	施工費用	コンセプト	用具の購入先	おすすめの庭	道順	トイレ	休憩場所	駅・バス停	駐車場	周辺観光施設	個人的なこと	その他	合計
小布施 度数	59	35	11	21	4	9	7	18	17	10	19	15	12	21	8	6	79
小布施の合計(79)に占める割合	74.7%	44.3%	13.9%	26.6%	5.1%	11.4%	8.9%	22.8%	21.5%	12.7%	24.1%	19.0%	15.2%	26.6%	10.1%	7.6%	
流山 度数	23	20	17	17	0	11	13	14	21	5	13	13	7	0	2	3	23
流山の合計(23)に占める割合	100.0%	87.0%	73.9%	73.9%	0.0%	47.9%	56.5%	60.9%	91.3%	28.2%	56.5%	56.5%	30.4%	0.0%	8.7%	13.0%	
恵庭 度数	33	25	19	16	3	5	11	18	13	0	6	5	1	7	2	0	34
恵庭の合計(34)に占める割合	97.1%	73.9%	55.9%	47.1%	8.8%	14.7%	32.4%	52.9%	38.2%	5.9%	17.6%	14.7%	2.9%	20.6%	5.9%	0.0%	
総計 度数	115	80	47	54	7	25	31	50	51	15	38	33	20	28	12	9	136
回答者全体(136)に占める割合	84.6%	58.8%	34.6%	39.7%	5.1%	18.4%	22.8%	36.8%	37.5%	11.0%	27.9%	24.3%	14.7%	20.8%	8.8%	6.6%	

※ 多重回答から作表しているため、行の割合を足しても100%にはならない

表 13 来訪者に質問されて困ったこと

	花や木の名前や種類	花や木の育て方	苗の購入先	施工期間	施工費用	コンセプト	用具の購入先	おすすめの庭	道順	トイレ	休憩場所	駅・バス停	駐車場	周辺観光施設	個人的なこと	その他	困ったことはない
度数	35	13	2	7	10	2	2	12	7	6	7	2	9	4	10	3	48
回答数全体(137)に占める割合	25.5%	9.5%	1.5%	5.1%	7.3%	1.5%	1.5%	8.8%	5.1%	4.4%	5.1%	1.5%	6.6%	2.9%	7.3%	2.2%	35.0%

n=137 Na=20 (14.6%) MT=130.7

さらに実際に質問されて困った内容について尋ねたところ、実際には、「質問されて困ったことはない」が35.0%、ついで「花や木の名前や種類」が25.5%となっている(表13)。ほかの植物関係の回答が明らかに低いことから考えると、ここで言う「困ったこと」とは、実際には「何度も聞かれて閉口する」というニュアンスに近いものと思われる。その意味で、質問された内容に関しては本質的に困っていない様子が見受けられる。想

定の範囲内で情報の交換が行われているものと思われる。また、調査地とこれらの設問群とのクロス集計をとってみたが、カイ2乗検定では、5%水準においても有意差は認められなかった。困ったことに関しては、調査地すなわち運営主体にかかわらず、共通しているものと理解できる。

(4) レジャー活動

オープンガーデンのオーナーで「非常によくする」と答えたのは、「園芸・庭いじり」が31.4%

と最も高く、ついで「ドライブ」と「音楽鑑賞」の6.6%だった(表14)。「よくする」と答えたのも、「園芸・庭いじり」が31.4%と最も高く、ついで「ドライブ」が27.0%、「音楽鑑賞」が24.8%だった。また逆に「ほとんどしない」と答えたのは「カラオケ」で66.4%、ついで「宝くじ」の62.8%だった。

先行研究においては、全国都市部住民の一般サンプルを対象とした調査結果と比較がされているが、それによれば、オープンガーデンオーナーは、「音楽鑑賞」や「ビデオ鑑賞」といったメディア視聴型レジャー活動、また「カラオケ」や「映画」、「外食」といった消費型レジャー活動への参加度が低い^{xiv)}。

もう少し単純化してとらえるために、5件法の調査結果を3件に集計したものが表15である。「ほとんどしない」と「たまにしかしない」を合

わせて「しないほう」、「よくする」と「非常によくする」を合わせて「するほう」とした。その結果、「園芸・庭いじり」を除いて、「しないほう」とそうではない2つの傾向が現れた。「しないほう」には、「ビデオ鑑賞」「宝くじ」「カラオケ」「映画」があり、そうでない方(「どちらともいえない」+「するほう」)には、「音楽鑑賞」「外食」「国内観光旅行」「ドライブ」「動物園・植物園・水族館・博物館」があげられる。

そもそもスケールとして検証されてきたものではないので、共通性は高くないが(表16)、因子分析を行ったところ、4つの因子が確認された(表17)。第1因子は、「ドライブ」「国内観光旅行」「動物園、植物園、水族館、博物館」「外食」「映画」からなるもので、「行楽・おでかけ系レジャー活動」と名づけた。第2因子は、「カラオケ」と「音楽鑑賞」からなるもので、「音楽系レジャー活動」

表14 レジャー活動の参加度(5件法)

	ほとんどしない	たまにしかしない	どちらともいえない	よくする	非常によくする	無回答
あなたは、園芸、庭いじりをしますか?	0.7	9.3	5.8	48.2	31.4	4.4
あなたはビデオの鑑賞(レンタルを含む)をしますか?	53.3	22.6	5.1	13.1	0.0	5.8
あなたは音楽鑑賞(CD、レコード、テープ、FMなど)をしますか?	20.4	29.2	11.7	24.8	6.6	7.3
あなたは宝くじを買いますか?	62.8	22.6	2.9	5.1	1.5	5.1
あなたは余暇活動として外食をしますか?	9.5	49.6	12.4	20.4	2.2	5.8
あなたはカラオケをしますか?	66.4	19.7	2.2	5.1	1.5	5.1
あなたは映画を見に出かけますか?	51.8	34.3	1.5	7.3	0.0	5.1
あなたは国内観光旅行に出かけますか?	20.4	39.4	10.2	21.2	2.9	5.8
あなたはドライブに出かけますか?	11.7	35.8	14.6	27.0	6.6	4.4
あなたは、動物園、植物園、水族館、博物館に出かけますか?	23.4	40.1	12.4	15.3	3.6	5.1

表 15 レジャー活動の参加度 (3件法)

	しないほう	どちらともいえない	するほう
園芸、庭いじり	10.0	5.8	79.6
ビデオの鑑賞	75.9	5.1	13.1
音楽鑑賞	49.6	11.7	31.4
宝くじ	85.4	2.9	6.6
外食	59.1	12.4	22.6
カラオケ	86.1	2.2	6.6
映画	86.1	1.5	7.3
国内観光旅行	59.8	10.2	24.1
ドライブ	47.5	14.6	33.6
動物園・博物館等	63.5	12.4	18.9

(%)

表 16 レジャー活動に見られる共通性 (全体)

	初期の 因子負荷量の 2乗和	因子抽出後の 因子負荷量の 2乗和
園芸、庭いじり	.091	.999
ビデオの鑑賞	.141	.356
音楽鑑賞	.096	.080
宝くじ	.127	.206
外食	.228	.303
カラオケ	.171	.999
映画	.150	.178
国内観光旅行	.191	.372
ドライブ	.275	.428
動物園・博物館等	.209	.301

表 17 レジャー活動の因子特性 (全体)

寄与の程度	第1因子		第2因子		第3因子		第4因子	
	行楽・おでかけ系		音楽系		園芸		その他気晴らし系	
項目	因子負荷量	因子負荷量	因子負荷量	因子負荷量	因子負荷量	因子負荷量	因子負荷量	
ドライブ	0.63	0.00	1.00	0.00	0.00	1.01	0.00	
国内観光旅行	0.62	0.00	0.23	0.00	-	-	0.41	
動物園・博物館等	0.53	0.00	-	-	-	-	-	
外食	0.49	0.00	-	-	-	-	-	
映画	0.30	0.00	-	-	-	-	-	
固有値 (%)	24.29		12.26		11.62		10.89	
累積寄与率 (%)	11.81		23.49		37.32		42.22	

因子抽出法: 最尤法

回転法: プロマックス法

と名づけた。第3因子は「園芸・庭いじり」単独、第4因子は「ビデオ鑑賞」と「宝くじ」からなるもので、「その他気晴らし系レジャー活動」と名づけた。

4つの因子での説明力は42.22%であるが、音楽系レジャー活動における「音楽鑑賞」の寄与率が低いことと、園芸と音楽系レジャー活動に負の相関が見られることから(表18)、音楽系レジャー活動と言っても、音楽一般ではなく、時間を消費しながら歌うことに主体的に参加するカラオケの要素が強いことがわかる。また、表15からもわかる通り、今回の調査の対象であるオープンガーデンを行っている庭のオーナー達は、音楽鑑賞を「するほう」である。したがって、ガーデニングを通じた趣味縁の結実としてオープンガーデンをとらえると、この音楽鑑賞との間の親和性の高さは注目に値する。

なお、今回参加度を尋ねた10のレジャー活動について、調査地とのクロス集計をとったところ、

カイ2乗検定で有意差が認められたのは、5%水準でも「動物園、植物園、水族館、博物館」だけだった($p=0.031$)。運営主体との兼ね合いで言えば、流山において参加度の高いことが注目される(表19)。ただ、施設の立地と気候条件も考慮に入れないと、正確な評価はできない。

(5) 余暇診断結果

余暇診断結果のうち、余暇退屈度(LBS)に関しては、余暇退屈度ショートバージョン短縮版(8項目)を用いたが(表20)、3調査地の余暇退屈度(LBS)の基本統計量をまとめたのが表21である。

5件法による設問項目は、「全くそう思わない」を1、「あまりそうは思わない」を2、「どちらともいえない」を3、「ややそのとおりである」を4、「全くそのとおりである」を5として分析した。

流山では、「自由時間に何かしたいののだが、何をしたらいいのかかわからない」という項目が、標準偏差0.449とバラつきが少なく、また最大値が2すなわち「あまりそうは思わない」となってい

表18 因子間の相関

因子	行楽・おでかけ系	音楽系	園芸	その他気晴らし系
行楽・おでかけ系	1.000	.301	.108	.311
音楽系	.301	1.000	-.098	.151
園芸	.108	-.098	1.000	.100
その他気晴らし系	.311	.151	.100	1.000

因子抽出法: 最尤法

回転法: プロマックス法

表19 レジャー活動の参加度(動物園等へのおでかけ)

	ほとんどしない	たまにしかない	どちらともいえない	よくする	非常によくする	合計
小布施 度数	15	36	9	12	2	74
地域別の割合	20.3%	48.6%	12.2%	16.2%	2.7%	100.0%
流山 度数	3	7	5	5	3	23
地域別の割合	13.0%	30.4%	21.7%	21.7%	13.0%	100.0%
恵庭 度数	14	12	3	4	0	33
地域別の割合	42.4%	36.4%	9.1%	12.1%	0.0%	100.0%
合計 度数	32	55	17	21	5	130
全体の割合	24.6%	42.3%	13.1%	16.2%	3.8%	100.0%

表 20 余暇退屈度ショートバージョン (8項目)

項目番号	簡略表現	項目内容
LBS_1	面倒	私にとって、自由時間は面倒で厄介なものである
LBS_3	退屈	自由時間があると、退屈してしまう
LBS_5	無駄	自由時間のときには、何をしても無駄なような気がする
LBS_6	それなり	自由時間の際、いつもやりたいことをやっているわけではないが、かといって、ほかにどうしたらいいかわからない
LBS_10	ぼんやり	自由時間に何かしたいのだが、何をしたらいいかわからない
LBS_11	寝る	自由時間の大部分を寝ることで過ごしてしまう
LBS_14	不愉快	余暇活動をそれほど楽しいとは思わない
LBS_15	技術不足	私は、余暇活動を楽しむ術(すべ)をあまり身につけていない

表 21 余暇退屈度 (LBS) の基本統計量

	LBS_1	LBS_3	LBS_5	LBS_6	LBS_10	LBS_11	LBS_14	LBS_15
	面倒	退屈	無駄	それなり	ぼんやり	寝る	不愉快	技術不足
小布施								
平均値	1.65	1.73	1.52	1.77	1.59	1.57	1.50	1.80
最頻値	1	1	1	1	1	1	1	1
標準偏差	.801	.849	.648	.869	.757	.778	.687	.870
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1
最大値	4	4	4	4	4	4	3	4
流山								
平均値	1.22	1.35	1.39	1.43	1.26	1.43	1.48	1.52
最頻値	1	1	1	1	1	1	1	1
標準偏差	.518	.573	.656	.728	.449	.896	.947	.730
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1
最大値	3	3	3	3	2	5	5	3
恵庭								
平均値	1.47	1.59	1.56	1.56	1.29	1.26	1.35	1.62
最頻値	1	1	1	1	1	1	1	1
標準偏差	.615	.783	.927	.613	.524	.511	.485	.697
最小値	1	1	1	1	1	1	1	1
最大値	3	3	5	3	3	3	2	3

る。つまり、自分のやりたいことへの動機づけができていないことと表れだと考えられる。

また恵庭では、「余暇活動をそれほど楽しいとは思わない」という項目が、標準偏差0.485とバラつきが少なく、また最大値が2すなわち「あまりそうは思わない」となっている。つまり、余暇活動が充実していることを示していると考えられ

る。

両者に比べて、小布施では全ての設問項目において、バラつきが小さくない。これは言い換えれば、様々な立場の人がそれぞれの思いを抱えてオープンガーデン活動に参加していることを示している。

6. 結論

今回の調査の結果明らかになったのは、各調査地において庭を公開するスタンスの違いである。これはもちろん地域そのものに起因するのではなく、その運営主体の特性に由来するものである。

先行研究にも見られる通り、小布施は町がリードする修景事業の延長線上に、観光事業と連動するかたちでオープンガーデンを実施している。通年で庭を公開することを前提とするとともに、無理の無いかたちで継続できるように、「おかまいなしで失礼します」というスタイルになっている。これは間口が広くなり、参加者としてのオーナーにとっても敷居が低くなる効果があるが、来訪者との交流に制限が生まれる。

また恵庭も特に大きな制限を設けているわけではないが、もともとが住宅地として開発が始まった地区であり、「観光公害」とならないように、市が各種の住民組織と調整をしながらオープンガーデンを実施している。そこには、庭そのものよりもライフスタイルを公開している趣きがある^{xxv)}。そうした傾向が今回の調査結果にも反映しているように思われる。

流山においては、運営主体である市民グループの方向性が地域指向からガーデニング指向へと変成しつつあり、交流の核が変わりつつある。

日本においてはオープンガーデンの地域差は確実に存在しており、それぞれきめ細やかな対応が求められるが、その運営主体に着目すると、ある程度方向性で分類が可能だと思われる。ただもちろん、ここで忘れてはならないことは、オープンガーデンオーナーが何らかの形で訪問客との交流を求めていることに変わりはない、ということである。そして、この差異と共通点の両者を押さえることが、今後、オープンガーデンの運営や支援を考える上で大きな指針となる。

謝辞

本研究を行うにあたり、質問紙調査にご協力いただいた長野県小布施町のみなさま、「ながれやまガーデニングクラブ『花恋人（カレント）』」のみなさま、恵庭市のみなさま、内倉真由美様に、心より感謝いたします。

付記

なお本研究は、2013（平成 25）年度科学研究費基盤研究（C）課題番号 25501015、「オープンガーデンマップの設計による観光情報の類別」（研究代表者：土屋薫、研究分担者：林香織、下嶋聖）の一環として行われた調査の成果を利用したものである。

註

- i) ソースタイン・ベブレンは、富と権力の証明としての消費、さらに生産的活動の回避としてレジャーの役割を位置づけている。チャリティは「高貴なる者の義務」のひとつとしてとらえられるので、ベブレンの議論からすれば、イギリスのオープンガーデンはレジャーの王道とも言える。
- ii) 国土交通省都市局の都市緑化データベースによる。http://www.mlit.go.jp/crd/park/joho/database/toshiryokuchi/open_garden/index.html
- iii) <http://d.hatena.ne.jp/pccgarden/20061113/p1>
- iv) 朴恵恩・野中勝利、オープンガーデン活動の実態からみた展開と課題、都市計画報告集 7、2008、p.35
- v) 商業施設のグループによるものに関しては、施設利用や課金を前提としないものに限って取り上げたが、「市民グループ」ではなく「その他」に区分した。
- vi) たとえば、先行研究によるガーデニングブームの年と言われる 1997 年には市民グループによる公開開始が多く見受けられるし、「平成の大合併」のピークと言われる 2005～2006 年頃からしばらくは地方公共団体による公開開始が減っている。これらの相関あるいは増減の原因については本研究においては扱わない。
- vii) 小林昭裕、ガーデニングとまちづくり、(浅川昭一郎編著、「北のランドスケープ」環境コミュニケーションズ、東京)、2007、p.105 に加筆修正した。
- viii) 林香織、観光情報の類別に地域資源が与える影響－流山市、小布施町、恵庭市のオープンガーデンの比較から－、江戸川大学紀要 25、2015、p.220

- ix) 居住年数については自由筆記で回答していた
だいており、70歳以上の方から70数年・80
数年という回答を複数得ている。「100年」
との記述に関しては、100歳未満の年齢の方
からの回答であったが、江戸時代からの歴史
のある町ということで、「上の世代との同居」
というクロスチェックをした上で、「上の世
代から同じところに住み続けている」と理解
し、ここではあえてデータから削除しなかつ
た。なお、小布施の居住年数の平均値は
44.1、標準偏差は23.938となっている。
- x) 流山の居住年数の平均値は30.57、標準偏差
は9.76となっている。
- xi) 恵庭の居住年数の平均値は23.5、標準偏差は
8.016となっている。
- xii) アンケート調査に先駆けて行われたパイロッ
ト調査(2014年3月10日実施)では、オーナー
からこうした意見が上がっていた。
- xiii) 小布施・恵庭とも、庭の公開に関して特に期
間的な限定をしていない。また流山では、統
一公開日以外でも連絡が取れば庭を公開し
ている。ちなみに、どの調査地とも分布自体
は正規分布となっていないが、標準偏差を取
ると、流山が603.868(平均値=622.35)、小
布施が7920.177(平均値=2086.89)、恵庭が
3466.405(平均値=1166.46)となっており、
流山におけるデータのバラツキの大きくない
ことがわかる。
- xiv) 土屋薫、オープンガーデンにおける交換過程
に関する考察－着地型観光における交流の構
造把握に向けて－、江戸川大学紀要25、
2015、p.27
- xv) 北海道旭川市にある旭山動物園では、落ち込

んだ入園者数の回復を図るため、1997年よ
り動物の姿を見せる「形態展示」ではなく、
その生活自体を見せる「行動展示」を導入し
たことで大きな注目を集めた。比喩的に言え
ば、恵庭のオープンガーデンには、庭そのも
のを見せるというよりも、生活の中でどのよ
うな庭づくりを楽しんでいるか、についてゲ
ストにお見せする(おすそわけする)感覚に
近いものが感じられる。

参考文献

- 相田明・鈴木誠・進士五十八、英国ナショナル・
ガーデン・スキームによるオープンガーデンの
発祥と活動、ランドスケープ研究65(5)、2002
オープンガーデンガイドブック2013～2015年度
改訂版、マルモ出版、東京、2013
- 朴恵恩・野中勝利、オープンガーデン活動におけ
るきっかけと期間を視点とした活動実態からみ
た継続性、日本建築学会計画系論文集75、2010
- 佐橋由美・茅野宏明・野村一路、余暇生活設計の
ためのツール開発に関する研究(2) ILM日本
語版の信頼性と妥当性に関して、自由時間研究
(21)、1997
- 土屋薫・林香織・下嶋聖・宮崎雅代、オープンガ
ーデンに見られる趣味縁の可能性に関する考察
－レジャー活動を通じた豊かさの指標づくりに
向けて－、レジャー・レクリエーション研究
75、2015
- 土屋薫・澁谷泰秀、ストレスと余暇行動における
ニーズ形成、青森大学研究紀要24(3)、2002

(受付：2016年1月9日)
(受理：2016年7月25日)